

小麦情報

秋田地域振興局 農林部 農業振興普及課

No.3

Tel. 018-860-3410

Fax. 018-860-3834

生育ステージに合わせた適期追肥の実施を！

1 気象経過

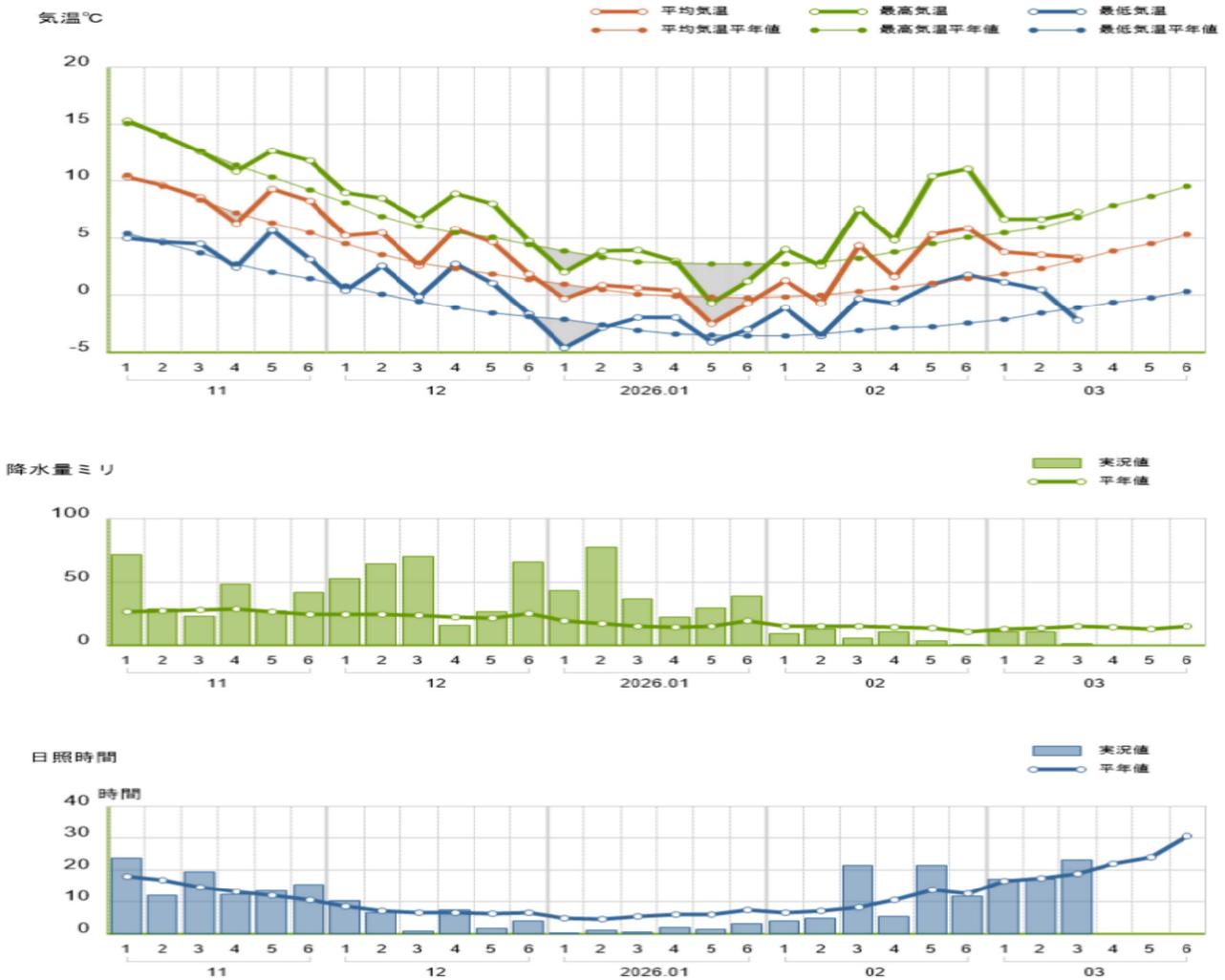


図1 半旬毎の気象経過(アメダス大湯、2025年11月～2026年3月3半旬)

〈概況〉

2月以降、気温が概ね高く推移しています。加えて、3月12日に仙台管区气象台から発表された1か月予報(3月14日～4月13日)によると、向こう1か月の気温は高いと予想されており、今後、小麦の生育が早まると考えられます。また、3月11日に実施した生育調査では、越冬後の小麦の生育量は小さかったため、収量・品質を確保する上で追肥の実施が例年以上に重要になると考えられます。生育ステージに合わせた適期の追肥に努め、収量・品質の向上を図りましょう。

2 令和8年産の生育状況

- ・ 3月11日の生育調査結果（銀河のちから）は草丈12.1cm（平年比82%）、茎数844本/m²（同比93%）、葉数8.5葉（同差-0.7葉）となりました。草丈は平年よりも短く、茎数および葉数はいずれも少なくなりました。また、3月11日時点の幼穂長は2.5mm（平年差+0.5mm）となっていました。
- ・ 今年度の根雪期間（観測地点：秋田）は46日（平年52日）で平年並、根雪最終日は2月14日（平年2月26日）で早くなりました。雪消えが早く、幼穂の伸長は進んだものの、根雪前の生育量が小さかったことから、越冬後の生育量も小さくなったと考えられます。

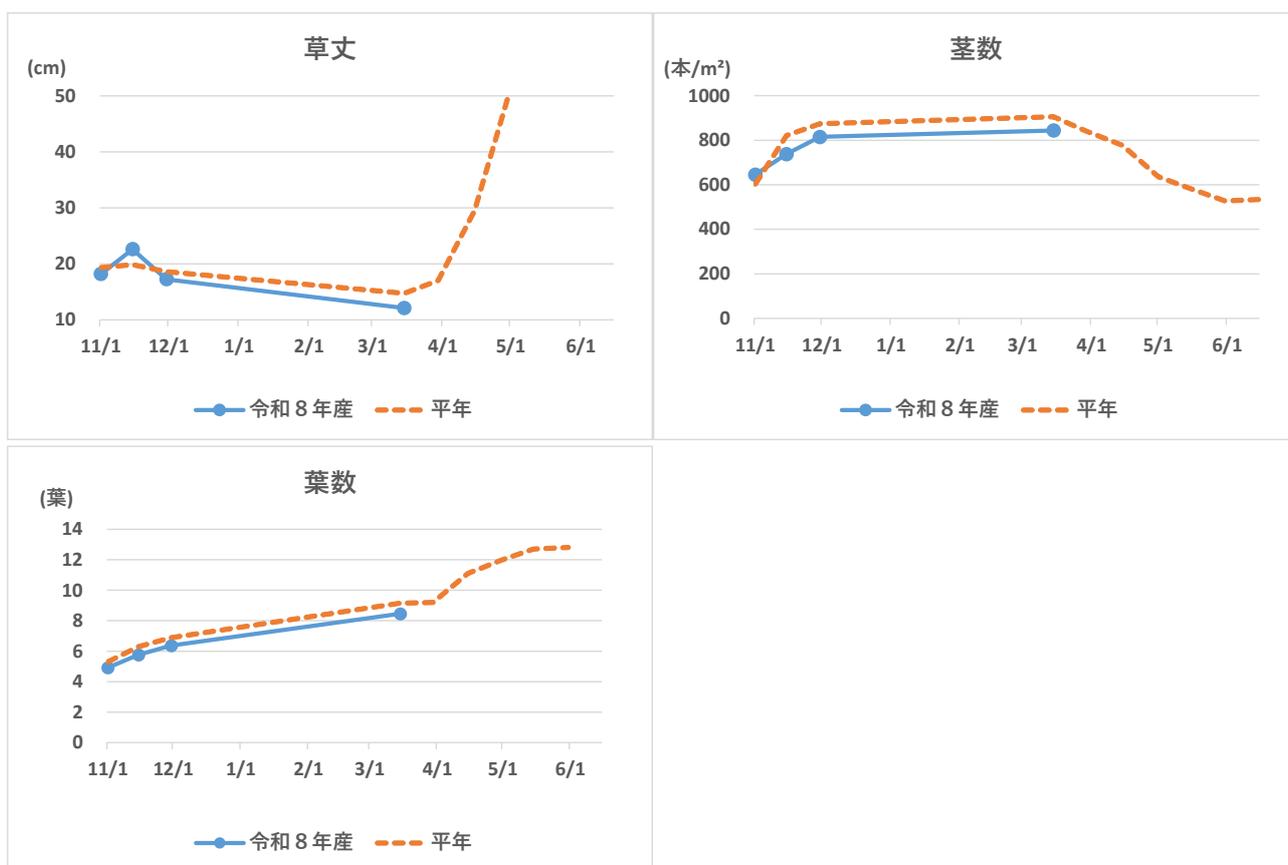


図2 令和8年産小麦の生育状況の推移（「銀河のちから」4地点平均）

3 当面の管理

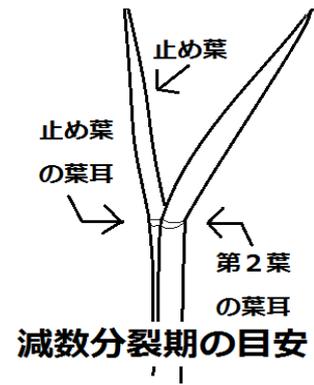
(1) 追肥

① 穎花分化期追肥（幼穂5mm期、本年は3月下旬～4月上旬）

- ・ 穎花分化後期追肥は、1穂着粒数の増加効果がみられます。湿害等により葉色が薄い場合（SPAD値が45以下）は尿素を窒素成分2kg/10a程度追肥してください。

②減数分裂期追肥（葉耳間長±0 cm、本年は4月下旬予想）

- ・減数分裂期追肥は1粒重を増やし、タンパク質含有量を高める効果があります。葉耳間長±0 cmに達した頃（減数分裂期、出穂10～7日前）に実施します。
- ・施肥量は窒素成分で2～4 kg/10aとします。ただし、草丈が長い場合や葉色が濃い場合には、倒伏しないように、施肥量を調整してください。
- ・減数分裂期追肥が遅れると、子実品質が低下したり、粉色が悪くなるため適期追肥を行ってください。



(2) 病害虫防除

○赤かび病防除

- ・赤かび病は開花が始まってから10日程度の間が最も感染しやすく、この間に降雨が続く、気温が高いと多発します。薬剤による防除は開花始期に1回目の散布（シルバキュアフロアブルまたはストロビーフロアブル）を行い、1回目の散布から7～10日後に2回目の散布（同剤以外の薬剤）を行います。 開花始期に1回目の薬剤散布ができないと予想される場合は、早めに散布してください。
- ・ほ場間での生育差が大きい場合はよく観察して適期防除に努めてください。
- ・耐性菌を出さないため、RACコードが1、3、11の薬剤は連用を避けてください。
- ・菌糸や胞子が種子に付着し、次作の伝染源となるおそれがあるため、発病が確認されたほ場では採種をしないでください。

※赤かび粒の混入率が0.0%を超えると農産物検査規格において規格外となります。また、同病で発生する毒素（DON（デオキシニバレノール））が1.0ppmを超えると食用小麦として販売できなくなります。

◆赤かび病防除使用薬剤

RAC コード	薬剤名	希釈倍率 (10aあたり)	散布量 (10aあたり)
1	トップジンM粉剤DL	4 kg	-
M2	イオウフロアブル	400～800倍	100～150L
3	シルバキュアフロアブル	2,000倍	
11	ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	
M2/UN*	石灰硫黄合剤	50～60倍	100～150L
M2/UN*	OAT石灰硫黄合剤	100倍	
1	トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	

○さび病

- ・春から初夏に好天が多い年、暖冬の年に発生が多いとされています。収穫後のこぼれ麦で越夏して秋の発生を招き、翌春の発生を多くします。発病が見られた際は下記の薬剤を参考に防除をしてください。耐性菌の出現回避のため、RACコードが3、7、11の薬剤の連用はしないでください。

◆さび病防除使用薬剤

RAC コード	薬剤名	希釈倍率 (10aあたり)	散布量 (10aあたり)	散布時期及び回数
M2	イオウフロアブル	400倍	100~150L	発病初期から蔓延期 2~3回
3	シルバキュアフロアブル	2,000倍		
11	ストロビーフロアブル	2,000倍		
M2/UN*	石灰硫黄合剤	40~140倍		
7	バシタック水和剤75	1,000~1,500倍		

※シルバキュアフロアブル、バシタック水和剤75の使用回数はそれぞれ2回以内。

○うどんこ病

- ・春から初夏にかけて温暖・多湿の時に発生が多く、厚播や多肥、過繁茂のほ場で多発します。発病が見られた際は下記の薬剤を参考に防除をしてください。耐性菌出現回避のため、RACコードが1、11、50の薬剤の連用はしないでください。

◆うどんこ病防除使用薬剤

RAC コード	薬剤名	希釈倍率 (10aあたり)	散布量 (10aあたり)	散布時期及び回数
M2	イオウフロアブル	400倍	100~150L	発病初期から 2~3回
50	カッシーニフロアブル	3,000倍		
11	ストロビーフロアブル	2,000~3,000倍		
M2/UN	石灰硫黄合剤	40~140倍		
1	トップジンM水和剤	2,000倍		